

森のようちえんから広がる、 里山の人・世代・未来



森のようちえんウィズ・ナチュラ

平成29年度 森林環境教育(森林ESD)活動報・意見交換会

森のようちえんウィズ・ナチュラ

- ・2010年4月イベント型の森のようちえんを奈良県葛城市の自然公園でスタート。月2、3回の親子クラス。
- ・2016年4月より通年型の森のようちえんを年少児5名とスタッフの子ども2歳児2名でスタート。明日香村栢森（森林環境教育フィールドforest river管理地私有林）の里山にて。
- ・保育時間は、毎週火曜日から金曜日の9時から14時30分。
- ・園舎はなく、1年中雨の日も雪の日も野外の保育活動。
- ・スタッフは有資格者のコアスタッフ5名とサポートスタッフや親子組担当スタッフ、ボランティアスタッフを含め10名。

ナチュラっ子



年長1名
年中4名
年少6名
2歳児2名
(2018年1月現在)



森のようちえんって？

- 1950年代にデンマークで一人のお母さんが、森の中で我が子と近所の子どもを保育したのがはじまりとされている。
- 日本では、2005年から「森のようちえん全国フォーラム」が開催され、2008年に「森のようちえん全国ネットワーク」設立。2017年4月には「NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟」となる。
- 長野に30年以上前設立された「こどもの森幼稚園」が最初。日本では年々増え、250近くの森のようちえんが存在するといわれている。
- 関西では昨年11月より森のようちえんリレーセミナーin関西がスタート。

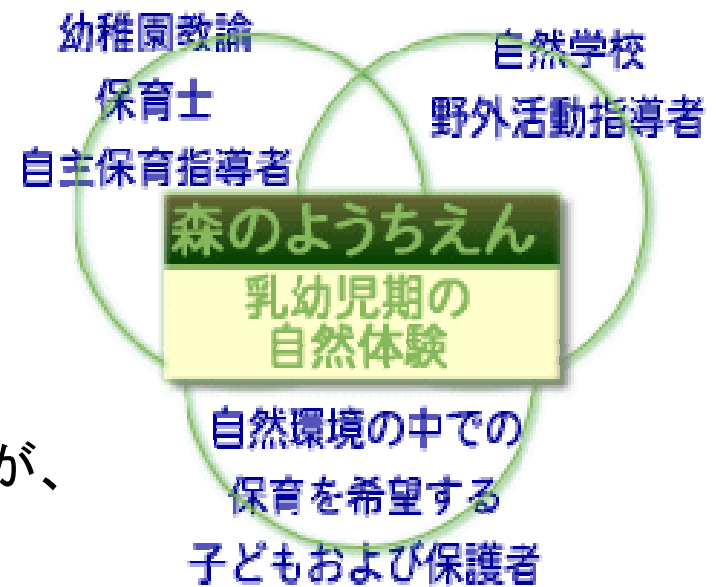
日本の森のようちえんって？

- * 森のようちえんには、様々なスタイルがあり、日本では自然環境の中での幼児教育や保育を、森のようちえんと呼びます。
- * 園舎を持つところも、園舎を持たないところもあります。スタイルはいろいろですが、共通しているのは自然の環境の中での幼児教育と保育です。
- * そして多くの森のようちえんは、意図的に大人の考えや考え方を強要せず、子どもが持っている感覚や感性を信じ、そして引き出すようなかわり方をしています。
- * 森のようちえんの中には、乳幼児とその保護者（主に母親）を対象とした育児支援も行われています。自然環境の中でのびのびと遊び、子育ての悩み相談や親同士の交流を持つことにより、育児に対する不安や負担を緩和しています。
- 核家族化や少子化が進む中、自然環境の中での子育て支援も行われています。
- 森のようちえんは、従来の幼稚園や保育園と対立する新たな教育ではありません。



森のようちえんの構成

- 森のようちえんは、大きく分けて二つの分野の指導者と、それを望む子どもや保護者から成り立っています。
- 保育者(幼稚園・保育園・自主保育グループ)が、自然の中で保育を行う。又は、積極的に保育活動の中に自然体験活動を取り入れる。
- 自然体験活動を行っている野外活動指導者などが、幼児を対象とした自然体験プログラムを行う。
- わが子に自然体験活動を経験させたい、または自然体験活動型の保育を望む保護者。



森のようちえん全国ネットワークHPより

* この三者がそれぞれの分野で情報を提供し合い共有することにより、日本における「森のようちえん」がさらに発展することとされます。



森のようちえんの 活動形態



日常型

自主保育型、主宰者型、共同保育型、認可施設型など



効果・特徴

連続性のある活動による成長過程の見守り、子どもの心身の育ちや多様な感性、体力や身体のバランス、自然の中で天気や季節に合わせた柔軟な感性を養う、協調性・コミュニケーション能力向上

預かり保育、保護者が当番で入る日がある

イベント型

不定期や週一・月一など、週末型や既存園の保育園・幼稚園の中のカリキュラムの一つとして



効果・特徴

居場所作り、コミュニティや仲間作り、情報交換、子育てのストレスや子どもの発散の場、お父さんの楽しみや活躍の場

親子参加型が多い

森のようちえんが大切にしていること

『自然はともだち』

- ・自然の中で、子ども、親、保育者が、共に育ちあうこと
- ・自然の営みに合わせるということ
- ・保育や福祉の仕組みを理解し、日本の保育や子育て全体に貢献すること



『いっぱい遊ぶ』

自然の中で、仲間と遊び、心と体のバランスのとれた発達を促す。

『自然を感じる』

自然の中でたくさんの不思議と出会い、豊かな感性を育む。

『自分で考える』

子どもの力を信じ、子ども自身で考え行動できる雰囲気をつくる。

子ども主体の幼児教育・保育

日々の自然体験や生活体験とそのプロセスを大切にしながら、子どもが持つ可能性の芽が出るのを信じて待つ保育。

「自分で考えて行動する」という内面的な力を育んでいる。

子ども一人一人の心と身体の発達に即した保育。

保育者・保護者ともに、その見えない心の動きや成長を観る目を養い、それを育むスキルが必要となる。大人も共に自分の人生や生き方を問いながら精神的な成長を促される。

子どもの「やってみたい！」という意思が尊重され、肯定的な環境や土台で、その子らしくあるがままに育つ。



大人になってからの子どもたちの
人生の土台を創っている時期(幼児期)
の体験の質を大切に環境を整えていく





森のようちえんウィズ・ナチュラの日常

8:40~9:00 登園

9:00~ 自由遊び

10:00頃 朝の会

10:15 野外保育(お散歩、川遊び、野外料理、畑仕事など)

12:00 昼食(お弁当か野外料理)

12:40頃 野外保育

14:30 降園



種蒔き・水やり・収穫・料理・火起こし・食べる！



四季折々の多種多様な 植物・生き物との出会い



自然への畏敬の念

言葉で伝えられるものではなく、日常目に見えないものが積み重なっていく体験を通して、子どもたちの中に育まれていっているのを感じる
大人がやっているとマネをする、そして、「なぜ手を合わせるんだろう？」という不思議さに目覚め、理解を深めようとする。先に教えては理解につながらない。



環境教育イベント



森林整備体験





竹灯り





フィールド 整備



防災かまど作り



日本の教育が変わります

- 学校教育法、幼稚園教育要領、保育所保育指針、大学入試制度が変わります。
- 自然体験の大切さや地域に開かれた教育の場であることが求められています。
- 地域や人と自発的に関わっていかないと、本当の意味で、その地域の未来や人々のことを考えて行動する大人にはなっていない。
- 大人が率先して動く背中を見せていく。

親子組はぐみい(未就園児親子クラス)



リラックス＆リフレッシュ

子育て講座やWS



孤育てをなくす



今しかできない体験を共にし、他の親子と分かち合う(仲間作り)



良いお母さんより、
幸せなお母さん
になろう！



森のようちえんがカフェ？

クラウドファンディングで古民家改修資金を募り、子育て中のお母さんたちが安心して集えるコミュニティーデリカフェ『自然な暮らしcommu+café コリコック』を今年3月にオープン！

公的支援のない森のようちえんの運営資金を作るべく、お母さんたちが中心にワークショップやイベントを企画・運営している。





いつまでも
いつまでも
そのまんまの
まっすぐで
キラキラの
みんなできてね



ご静聴ありがとうございました



森のようちえんウィズ・ナチュラで検索 ブログで日々の保育の様子
を更新中
Facebookページもあります。